

高等学校古典漢文分野において多様な視点から考える力を育てる指導の工夫

－「比較して読む」ことから「人物像を発表する」ことへの発展を通して－

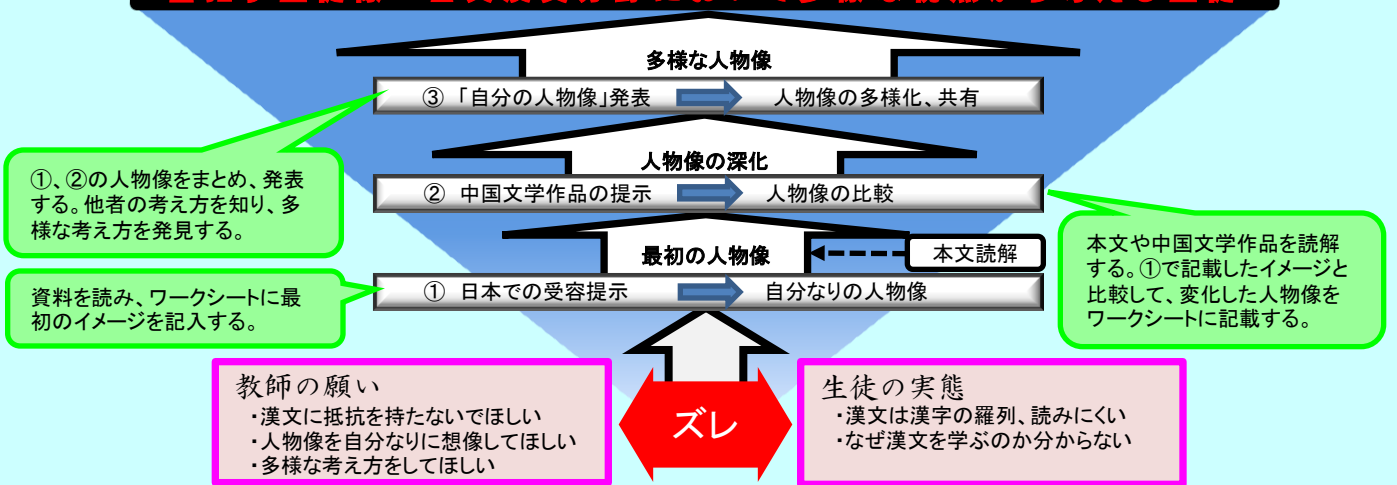
国語班 須田克人(中等教育学校教諭)

主題設定の理由

- 『平成23年度県立学校教育指導の重点』
→「言語活動の充実」「論理的に思考し表現する能力の育成」「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力の育成」
- 「漢文学習の意味が分からない」「漢字の羅列で取り組みにくい印象がある」という生徒の印象
→漢文学習に対する意識は低くなる傾向
- 教師の願い
→複数の作品を読み比べ人物像を想像することで、漢文のもつ多様な解釈の可能性にも気付いてほしい。
→読解を深め、他者の表現を知ることで多様な視点から考えることができる力を育成したい。

研究構想図

目指す生徒像：古典漢文分野において多様な視点から考える生徒



実践と結果

教材：『史記』鴻門之会

- ① 日本での受容 (イメージ作り) → 9割以上の生徒が人物像をワークシートに記入することができた
内容に入りやすかった。／世界観をイメージしやすかった。／おおまかな話の流れがつかめた。／おもしろかった。
- ② 中国文学作品 (比較、変化) → 白文の読み下し解釈、積極的なワークシートへの書き込み等の作業ができた
難しかった。／劉邦は実は策略家だと思ふようになった。／范増は結局何もしていない。／張良はよい人である。
樊噲は猪突猛進するだけでなく弁もたつ。／項王は単純で意外といい人かもしれない。
- ③ 発表 (考えの多様化、共有) → 本文や資料を論拠とした人物像に関する意見交換により、視点を広げることができた
項王：悪いイメージしかなかったが、良いイメージを持つ人がいて驚いた。
劉邦：最初自分の軍を守るためプライドを捨てることのできる人物だと思ったが実はしたたかで抜け目ない人物である。
范増：初めは嫌いだったが主人(項王)のために策を練っていたと気付いてイメージが変わった。
最初行動が早く短気なイメージだったが実際は自分で何もできないので項王や項莊を道具に使っていると思った。
項莊：最初忠義心のある真面目な人物だと思ったが言われたことを実行するだけで意志が弱いと考えようになった。
(生徒アンケート、ワークシートより抜粋)

成果と課題

～成果～

- ★①の資料はイメージ作りに有用で本文や資料を熟読するきっかけになった。
- ★人物評価は人により様々で、活発な議論を生んだ。
- ★他者の意見を聞くことや自分の人物像をまとめることで様々な視点の存在や重要性を発見できた。

～課題～

- ▲②の資料が難解すぎた。資料の選定に配慮したり読みやすくするための加工をしたりする必要がある。
- ▲資料提示の部分では視覚的なインパクトに欠けるので情報機器等を使用するなどの工夫をしたい。